

# 県立高校改革実施計画(第I期)指定校 横須賀三浦・湘南地域平成29年度成果 発表会が開催されました。

日時 平成29年12月26日(火) 9:15 開会(8:45受付開始)  
場所 鎌倉高等学校国際理解ホール  
プログラム

- (1) 開会式 9:15
- (2) 学習成果発表会 9:30  
(生徒発表 第1グループ7校・第2グループ6校)  
参加生徒によるグループディスカッションでの振り返りと共有  
講評・アンケート記入
- (3) 教員による研究成果発表会 13:00~15:00  
(教員発表 第1グループ6校・第2グループ5校)  
全体会(全体を通しての質疑応答・意見交換・振り返り)  
講評・アンケート記入
- (4) 全体会 15:10~15:30



**プレゼンター**  
1年 鈴木 弥禄くん  
3年 神谷 友子さん

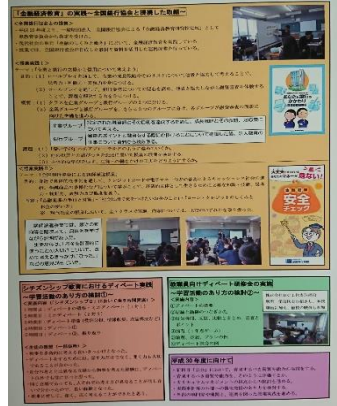
## 湘南台高等学校 教育課程研究開発校(新科目「公共」に係る研究)

### 学習成果発表会

### 研究成果発表会



付箋貼での感想、  
質疑は次のページ



## 学習成果発表会

### I 感想・評価

#### 1回目 セッション

- 落ち着いていてわかりやすい発表でした。
- ポイントを押えた簡潔な発表でした。
- 語尾まで聴き取りやすいと思いました。
- シチズンシップ教育の取り組み、目標がわかりやすく説明されていた。それぞれの成果も発表されていて良かった。
- これからの日本の事を深く考えた研究であることがわかりました。この発表の内容は他校でも取り入れていくべきではと感じ取れるところがあって素晴らしい内容でした。
- 模擬選挙を高校生のうちから行うのはよいと思います。
- 大きな声で堂々と発表できて良いと思います。

#### 2回目 セッション

- ジェスチャーをうまく使っていて、声が聞き取りやすかった。自分が授業で行って積み重ねた経験をきちんと述べていて良かった。
- きちんと発表のポイントを理解できているなど感じた発表でした。台本をほとんど見ない等、政治に対しての関心が低い中、政治を基本から学べるのはいいと思った。
- もう少し話すスピードをゆっくりしても良い。
- 模擬選挙を通して感じたことをもっと知りたいと思いました。
- 模擬選挙の取り組みの中で難しいと思ったこと、困ったことも聞けたらよかった。
- 政治に対する発表だったが少しインパクトが足りないと思った。

#### 3回目 セッション

- 声も聞き取りやすくとてもいい発表だと思う。
- 実際に候補者として立って模擬選挙を行っていて面白いと思いました。シチズンシップ教育も良く組み立てられていて、しっかりしているなどと思いました。
- 投票を放課後に行い、しかも投票率が83%と生徒さんの意識の高さに感心しました。
- 候補者も生徒が行うのは面白いと思いました。
- 視覚的にわかりやすい発表でした。
- 学年ごとで考える能力、発表する能力、自主的に活動する能力とステップアップしていく取り組みがとても良いと思いました。
- 一般的な模擬投票から踏みこんで「候補者の視点」での取り組みが素晴らしいと思いました。
- シチズンシップⅠ→Ⅱ→Ⅲのつながり、ⅡやⅢの時に過去のシチズンシップで学んだことを利用したことなどがわかるとよいかも。
- シチズンシップ教育を受けて社会に出てから必要な能力が身についたということでしたが、具体的な場面が入ってくると良い発表になるとと思います。

- 政党や候補者の数はいくつくらいだったのか、様々な政党を比較することも必要になると思います。

## II 質疑

- ① 生徒間で意識の差はあったのかな？ 特に1年生

→ 1年生のうちは生徒間の意識の差は大きいと思います。この意識の差を埋めるために、シチズンシップⅠは、政治参加教育に力を入れたプログラムとしています。シチズンシップ教育を3年間で段階的に学ぶことで、生徒の政治に対する意識は向上しているといえます。

- ② 政治への関心が向上したようだが、データはありますか

→ お互いの話の中等で伝わってきた。

研究成果発表会やPTA広報誌にデータを掲載しています。

平成29年度の実験である「模擬選挙」を通して、選挙に対する関心をもつことができた・ややできたと答えた生徒は91%でした。（有効回答数266）

- ③ 投票結果の分析が知りたいと思いました。

→ 年代ごとの分析を行った。

得票数の多い順に、（1）スマートフォン税の導入、（2）週休3日制の導入、（3）高校教育の無償化でした。（1）の政策は若い世代が多く持つスマートフォンに新しく税を課し、その税により高齢者などに向けた福祉を充実させるものです。高齢者向けの政策だったこと、高齢者向けの政策があまりなかったことから、この立候補者に票が集中したと考えられます。また、次いで獲得票が多かった政策も40代、50代向けの政策となっており、実際の選挙で比較的投票率の高い世代向けの政策が票を多く獲得しました。

- ④ 政治への関心等、生徒の温度差は？

→ 生徒の温度差は依然としてあります。この温度差をなくすために、授業で取り上げる内容をなるべく身近な事例（地域や学校など）中心にすることで、政治を他人任せにするのではなく、自分のこととして捉えることができる素地を作ることができるよう心掛けています。

- ⑤ 模擬投票（衆院選）と模擬選挙の実験の関連をどうしているのか？

成果の具体的な指標は何かあるか？

→ 現時点では衆議院選挙にかかる模擬投票と模擬選挙の関連付けまでには至っていません。衆議院選挙は解散により行われることがほとんどなので、年間の指導計画に盛り込むことができないのが現状です。どの時期の選挙にも対応ができるよう今後対策を検討していきます。

## 研究成果発表

### I 感想・評価

#### 1回目 セッション

- 投票層を分けて指導する発想がなかったので勉強になりました。
- 見通しのある流れ、構成になっていて、継続して学ぶにつれて深い学びにつながっていて、感心しました。本校のシチズンシップ教育よりはるかに充実しているので、参考にさせていただきます。
- 複数の視点での取組が大変すばらしいと感じました。
- 「社会に出てから役に立つ」という視点から実践的なプログラムが組まれていて、とても参考になりました。
- 経済主体としてのシチズンシップ教育は他の「法的」「政治的」な主体的学習につながる可能性を感じました。
- 「金融経済教育」では融資、審査、面談のロールプレイをすることで生徒に当事者意識を持たせることが主体的な学びになっている仕掛けがすばらしい。
- クラスによって異なる役割を担せ、ひとつの学びを行わせるという点、学校としてディベートを取り入れようとした点、他教科とも連携して取り組みが行われていた点、候補者と選挙人の双方を生徒にやらせていた点などが素晴らしかったと思います。
- 若年層の投票率の低さを踏まえた工夫がされてよい。
- 政治、経済、法をバランスよく取り組んでいるところが良い。

#### 2回目 セッション

- 課題について2つの異なる立場からアプローチするのはよいと思いました。  
(候補者と有権者)
- 3年間を通した取組というのが良いと思いました。また、ディベートも学べるところが良いと思います。
- 複数の視点、立場からのアプローチが説明されていて良かった。生徒目線での具体例が提示されることで若者が身近に感じやすい取り組みになっていたと思います。
- 立候補者となり政策を立てさせることは面白い取組と思った。地域自治会で選挙のたびに立会人が従事者としてのお手伝いをしているので、若い人の考え方を換えられる1つの方法かと思う。
- よく準備された取り組みで素晴らしかったです。
- 実際の生活に活かされるような取り組みで主体的に学ばせることができているが良い。
- 実生活につながる大切な取り組みだと感じました。

#### 3回目 セッション

- 授業者が良いと思ったことを具体的に伝えていたのが良かった。
- アクティブラーニングの一つとしてディベートは面白いと思った。
- 生徒が実際に模擬選挙を行ったり、ロールプレイ、ディベートなど主体的な活動がで

きていて良いと思いました。

- 資料のレイアウトが見やすいと思いました。
- 教員自身が「面白い」「わかりやすい」と感じる授業、教材でなければいけないと改めて考える発表でした。
- 取組みが具体的なところ

## II 質疑

- ① 「公共」が科目化された後、湘南台の「総合的な学習の時間」はどのようなのですか。  
→ 引き続き「シチズンシップ」として実施していく予定です。本校のシチズンシップ教育は公民科と関わりが深い政治参加教育だけではなく、ソーシャルスキルトレーニングや探求学習などにも力を入れています。これは、特定の教科だけではなく、あらゆる学習活動で活用できるスキルとなりますので、引き続き取組を進めていきます。「公共」が公民科目として置かれることで、「シチズンシップ」のあり方について改めて検討が必要になると思いますが、「公共」では十分に扱うことができない内容について、実施をしていく予定です。
- ② 「公共」と「総合的な学習の時間」のコラボになるのですか。  
→ 「公共」と「シチズンシップ」はその特性上、他の科目と比べて関連が深いといえます。両者の目標を踏まえつつ、横断的に取組を進めていきたいと考えています。
- ③ 金融犯罪等では情報の授業でも何らかしら連携が取れそうだと思います。ありがとうございます。  
→ 教科横断的な取組として、今後検討していきます。
- ④ 有権者を世代別に分けるだけでなく性別や階級、アイデンティティーなどで分けるやり方もあるのではないのでしょうか。世代以外の対立点もあると気づくこともある。  
→ 平成 29 年度に実施した「模擬選挙」では、若年層の投票率が低いことが何をもたらすのかを気づかせるというねらいがありましたので、世代別に分けることとしました。この取組について改めて検討し、今後はあらゆる視点から政治について考える取組をしていきたいと考えています。
- ⑤ 現在は総合的な学習の時間でシチズンシップ教育を取り入れているということですが、「公共」が導入された以降はこの2つをどのようにつなげていくのかが、気になりましたので質問します。  
→ 「シチズンシップ」において論理の立て方や思考法などを学び、公民科目の「公共」において、それらを活用しながら公共的な課題について考えを深めていくという関連づけができると考えています。具体的なあり方については、今後検討していく予定です。